



高画質な画像を撮る方法

素晴らしいガイドは高画質な画像から始まります。

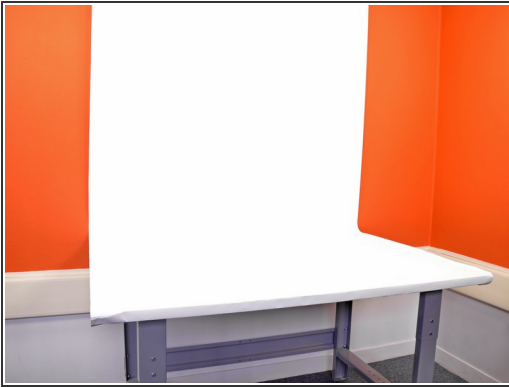
作成者: Jeff Suovanen



はじめに

素晴らしいガイド写真を撮影するには、高価な機材が必要なわけではありません。適切な技術と練習が必要です。このガイドに掲載されている写真は、地元のハードウェアショップの "Canon PowerShot SX120 IS" (一般的なコンパクトカメラ) と安価な10インチのクランプライトで撮影されたものです。プロのような写真を取り始めるために、このガイドに従ってください。

手順 1 — ワークスペースを設営します



- 平らなワークスペースで汚れないテーブルを準備します。
- ❗ ① 自然光を最小限にします。窓際に置いたテーブルでは時間が経過するにつれて光の状況が刻々と変化します。そのため、一定していない画像が撮れてしまいます。ドラキュラならおそらく死を意味します。
- 白いバックグラウンドを使用します。安価なマット紙のポスターボードや白い包装紙を使うとうまくいきます。ベッドシーツはおすすめできません。
- ライトを2つ使用してください。そして両側に設定します。
- 昼白色の電球を使用してください。5000-5500Kの色温度範囲をもつ電球、あるいは未使用の昼光色の電球でも対応できます。画像にオレンジ色の輝きを放つ白熱球の使用は控えてください。
- 脚立を使用してください。鮮明な画像を撮影するには、カメラを固定する必要があります。

手順 2 — カメラをセットアップします。



- フラッシュを使用しないでください！フラッシュは逆の結果を招きます。
- 高解像度設定を使用してください。私たちは大きな画像が好みです！
- 4:3で撮影します。ほとんどのポイントアンドシュートカメラは4:3の[アスペクト比](#)を自動的に使用し、DSLRは3:2で撮影します。
 - やってみたいと思うかもしれませんが、ポートレートショットを撮るためにカメラを回転させないでください。レイアウトの一貫性を保つために、すべての写真に縦横比4:3のアスペクト比にします。
 - 後でいつでも写真を4:3にトリミングすることができますが、4:3でイメージをキャプチャすると時間を節約できます。
- 絞り優先モードで撮影し、露出補正を強くします。自動モードは便利ですが、明るい背景では画像が少し暗くなる可能性があります。最良の結果を得るには、絞りモード（通常はAまたはAvで表示）を使用し、露出補正を約+1に設定します。

手順 3



- 遅延タイマーまたはリモートを使用してください。信じ難いかかもしれませんが、すこし震えた手にカメラを持って、少しぼやけたショットにすることができます。シャッターボタンを押した後に手を外せるように、セルフタイマー設定を使用して短い (1または2秒) 遅延にカメラ設定します。
- ラップトップまたはライブモニターに接続します。フルサイズでショットをチェックすると、問題を早期に発見することができます。カメラケーブルを使用するか、数回撮影して、メモ리카ードをコンピュータに読み込みます。

手順 4 — テスト撮影をします



- 撮影の準備ができました！
- 数枚撮影をして、コンピュータースクリーンに画像を映して、画質などを確認してください。よくある問題は次の通りです。
 - 強すぎる影— 単一の光源からの光が多すぎると、荒い影が生じてしまい細部が見ずらくなります。ライトを再配置するか、ライトを追加してシャドウを最小限に抑えます。
 - 眩しすぎる光— スクリーンや光沢のある表面にスポットライト効果を与えることがあります。ライトの位置を変えたり、デバイスの角度を調整してグレアをなくしてください。

手順 5



- 他によく取り上げられるのがホワイトバランスです。撮影環境での光の色の影響を補正して、白を白く写すための機能です。
 - 時々、オートホワイトバランスが適切に働かない場合があります。もし”ホワイト”であるはずなのに、白く見えない場合は、マニュアル設定にしてください。
 - 昼光色電球用には、カメラを”昼光色”もしくは”蛍光色”ホワイトバランス設定にしてください。白熱電球を使用しなければならない場合は、ホワイトバランスを”白熱電球”または”タングステン”(”屋内”と呼ばれることもあります) に設定します。画像からオレンジの色相を取り除いてくれます。
 - あるカメラにはカスタム製のホワイトバランス機能があります。綺麗な白のバックグラウンドをもつ画像を撮影することで”ホワイト”をより精密な色にできます。
- ① Photoshopなどのようなソフトウェアで編集された画像を使用する場合、ホワイトバランスを矯正することもできます。—しかしカメラを正しくセットアップよりも作業に時間がかかります。

手順 6



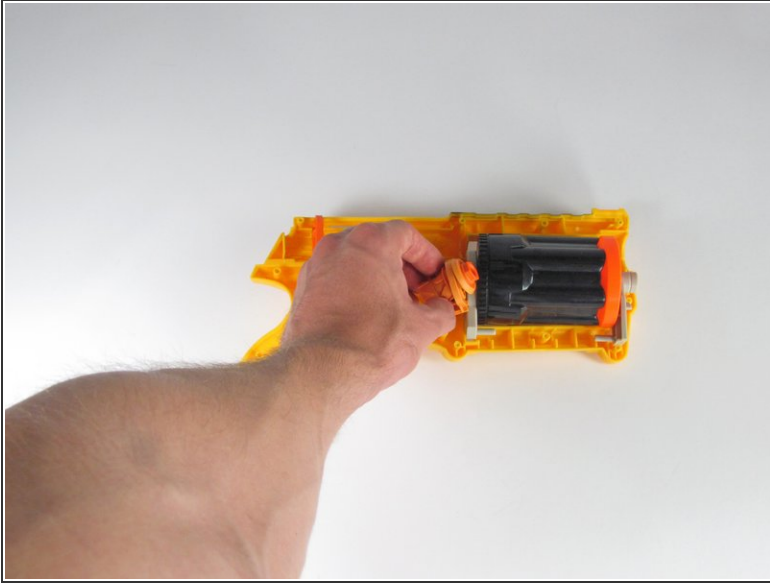
- 作業に進む前に、デバイスを解体するためのスペースを確保してください。撮影エリアで作業をすると邪魔になる沢山のモノで溢れてしまいます。すると撮影がうまくいかず、白のバックグラウンドの背景に余分なものが写り込んでしまいます。
- 撮影の準備ができた時、撮影用テーブルに移ってください。

手順 7 — 技術を向上させます



- 各ショットに手やツールを使って実際の作業をデモンストレーションしてください。
- 一人で作業をしていることを想定して撮影します。ユーザーが作業をしながら参照していることを考えながら向きや作業が一致するようにしてください。
- この一番最初の画像は必ずしも悪いとは言えません。よくライトが当たっており、映り込むものがなく、必要な作業が明確ですが画像はユーザー目線ではありません。
- 2番目の画像は全体的に妥当で、リーダー側に立った目線で撮影されています。

手順 8



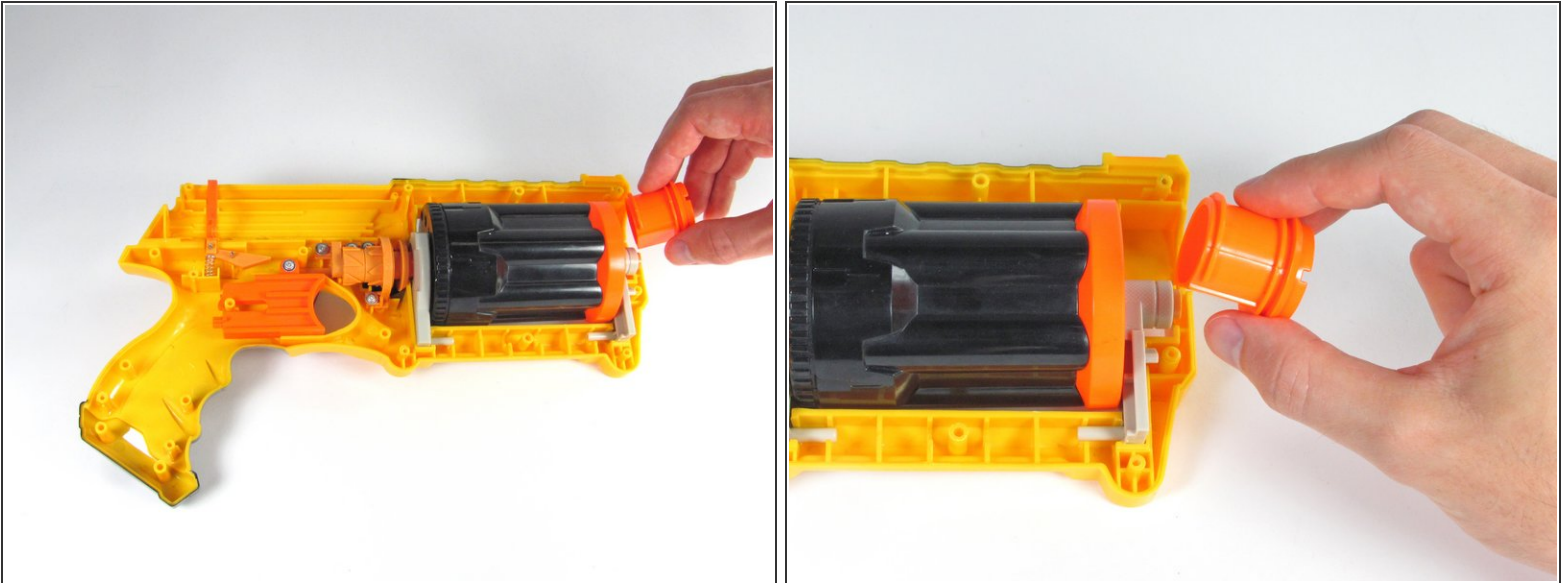
- 対象物をフレーム内にしっかりと収めます。この画像では対象物が遠く、フレームの小さな部分しか使用していません、
- 腕や手が視界の妨げにならないようにします。チームメートと協力すればこのような撮影をすることは防げます！
- 一人で作業をしている場合は、カメラの遅延タイマーを使って、手を離すことができます。

手順 9 — チームワーク！



- 素晴らしい修理ガイド用画像を撮るにはグループによる努力が必要です！
 - カメラオペレーター：この作業には忍耐が必要です。そしてわずかなテクニック技術と詳細を判断する視点が求められます。
 - ライトオペレーター：熱に強く、集中力が必要です。レーザーポインターを使っている人は失格にしましょう。
 - ハンドモデル：ツールやパーツを動かさず手で固定できる人です。またある時な絶妙なバランス位置を確保する必要があります。綺麗な爪先を持つ友達を探しましょう。くれぐれも電話番号がメモ書きされた手が写り込まないようにしましょう！
 - 記録用スタッフ：記述書きが得意な人。目で見ただけのものを全て書き留める人です。

手順 10



- フレーム中央で作業を進めます。フレーム内の中央で進める必要な作業は何か注目してください。
- ① アクションを強調させるためにデバイスを減らしても問題ありません。デバイスのどの部分を作業しているか明確に伝わっているか確認してください。

手順 11



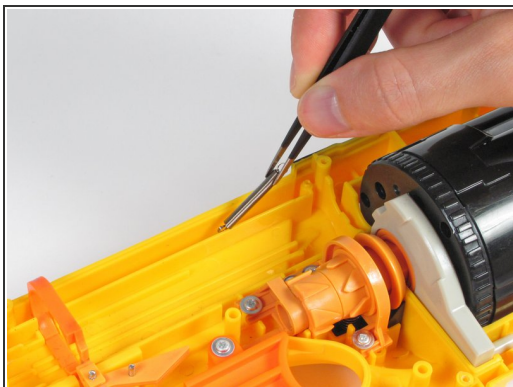
- 対象物に焦点を当てます。アクシデントでデバイスではなく、作業中の手にフォーカスが言ってしまうことがあります。
- ① ポイントアンドショットカメラではシャッターボタンを半分押したところで止めると焦点をロックすることができます。撮影する際には焦点をロックしてから手の位置を動かしながら一番良いポジションを探していきます。撮影するには、シャッターボタンを下まで押してください。
- ⚠ 撮影した画像のどれも焦点が定まっていない場合：カメラもしくはデバイスの動きが定まっていない場合に起こります。トライポッドもしくは遅延タイマーを使って、カメラを固定させてください。そして強い光をあてるとシャッターのスピードが速くなるため、光量を下げるとぼかしが少なくなります。

手順 12



- 各手順ごとに複数枚の画像を撮影してください。様々なアングルや位置で撮影し、ユーザーが最も欲しいと思う画像と内容を伝えられるものを選びます。
- 手でアクションをブロックしてしまうことがあります。手を逆にしたり、位置を変更したりして、ユーザーが作業の進行具合がわかりやすい画像を選んでください。

手順 13



- 細かい作業のショットではズームインをしてください。特に小さなパーツや複雑な作業ではわかりやすくなります。
- ⚠ ズームインをしすぎてしまうと、ユーザーが一体どこの部分を作業しているのかわかりにくくなります。画像中にどこの場所か十分わかるような距離を開けてください。
- この例として黒色の”ブレットマーク”で囲むと分かりやすくなります。このマークがなくても、作業は明確ですが、位置は不明瞭になります。
- 全ての近距離からの撮影では、カメラをフォーカスできない場合があります。マクロモードにして（通常この機能には花のマークが表示されます）近距離での撮影を継続してください。

手順 14



- 最終手段以外、メタル製の開口ツールは使わないでください。
- ナイロン製のスパッジャーやプラスチック製ツールはESDに対して安全で、外側パーツのダメージを与える可能性が低くなります。
- 上記のような安全なツールで対応できない場合にのみ、メタル製ツールを使用してください。ドライバーを使ってデバイスを絶対に開口しないでください。

手順 15



- 複雑な作業では連続した作業の画像を複数枚撮影します。”ストップモーション”やページをめくりながら本文中の画像が動く”ペラペラ本”のような効果機能を持たせます。ただし1つの手順には最大3つの画像しか使用できません。

手順 16



- "ジャジャン"と締めくくる写真は控えましょう。作業の手順を書くときには、簡潔な内容にすることが重要です。解体したデバイスを並べた写真では、作業内容や手順が伝わりません。
- ① このようなレイアウトショットは分解のページで使用されます。分解はデバイスのハードウェアの中身を垣間観れる楽しいページです。ですが、分解ページは修理マニュアルではありません。